

令和2年度  
厚生労働科学行政推進調査事業  
障害者政策総合研究事業  
分担報告書

国連国際障害統計に関するワシントン・グループ  
第17回から第20回年次会合までの成果を中心に

分担研究者 北村弥生 国立障害者リハビリテーションセンター

本稿では、国際連合（以下、国連）の国際障害統計に関するワシントン・グループ（以下、WG）での活動を、第17回年次会合（平成29年）から第20回年次会合までの期間について紹介する。短い質問セット、短い質問セット強化版、拡張質問セット、子ども用モジュール、労働力モジュール、インクルーシブ教育モジュール、心理社会的モジュール、環境モジュール等に関する情報を記載した。また、我が国におけるワシントン・グループの指標の活用状況を整理した。

本稿では、国連障害統計のワシントン・グループについて、若干の背景に加えて、第17回年次会合（2017年）から第20回年次会合までの展開を紹介する。また、我が国におけるワシントン・グループの指標の活用状況を整理した。ワシントン・グループの発足から第16回年次会合（2016）までの成果は別稿を参照されたい<sup>1)</sup>。

#### 1. 障害発生率と設問の変化

1990年に発行された障害者統計便覧（Disability Statistics Compendium）で55か国の障害者統計を比較した際に、障害者の人口に対する比率（障害発生率：disability prevalence）に差が大きかったことは、国際的に比較可能な障害の基準作りの必要性が示された根拠としてしばしば引用される。

国連障害者統計データベース（United

Nations Disability Statistics Data Base: DISTAT）<https://unstats.un.org/unsd/demographic/sconcerns/disability/disab2.asp>によると、1990年には世界最少0.2%であったチリの障害発生率は、1992年国勢調査では2.2%に増加していた。おそらく、1990年には「障害がありますか？（はい、いいえ）」という設問が、1992年には図1のように具体的な6つの障害種別を示した設問に変更されたためと推測される。それでも視覚障害は「全盲」、聴覚障害は「全ろう」と表現され、弱視や難聴をどの程度まで「障害」に含めるかは示されなかった。

障害者統計便覧で障害発生率が最大20.8%であったオーストラリアでも、設問の違いにより、障害発生率は1976年国勢調査の4.8%から1993年全国調査の18.0%に増加した（図2、3）。

Presenta alguna de las siguientes características?	次のような特徴はありますか？
1. Ceguera total	1.全盲
2. Sordera total	2.全ろう
3. Mudez	3.発話障害（啞）
4. Paralisis Lisiado	4.肢体の麻痺
5. Deficiencia Mental	5.精神の障害
6. Ninguna	6.なし

図1 1992年チリの国勢調査における障害に関する設問（DISTATより）

- Is this person handicapped by a serious long-term illness or physical or mental condition?	この人は、重度で長期の病気または身体・精神状態により社会的不利 handicap がありますか？
- in his or her education	—教育において
- in getting or holding a job	—就労において
- in getting about alone	—一人で移動する時に
- in doing housework	—家事をする時に
- in sporting or recreational activities	—スポーツやレクリエーションをする時に
- in acts of daily living, e.g. dressing, bathing	—日常生活をする時に（服を着たり入浴する等）
- in other ways	—その他の時に
- not handicapped	—社会的不利はない

図2 1976 オーストラリアの国勢調査における障害に関する設問(DISTATより)

1. Is there anyone in the household who has any loss of sight?	1. 世帯内に視覚の欠損がある人はいますか？
2. Can X see normally wearing glasses or contact lenses?	2. Xさんは、普通は眼鏡かコンタクトレンズを着けていますか？
3. Does anyone have any loss of hearing?	3. 聴覚の欠損がある人はいますか？
4. Does anyone have anything wrong with their speech?	4. 発話に問題がある人はいますか？
5. Is there anyone who has blackouts or fits, or loses consciousness?	5. 発作を起こしたり、意識をなくす人はいますか？
6. Does anyone have any condition that makes them slow at learning or understanding things?	6. 学習や理解が遅い人はいますか？
7. Does everyone have full use of their arms and fingers?	7. 世帯員全員は腕と指が完全に使えますか？
8. Does anyone have difficulty gripping or holding things such as a cup or pen?	8. カップやペンのようなものを掴んだり、保持したりするのが難しい人はいますか？
9. Does everyone have full use of their feet and legs?	9. 世帯員全員は足が完全に使えますか？
10. Is anyone receiving treatment for nerves or an emotional condition?	10. 神経または情緒的状态に対して治療を受けている人はいますか？
11. Does anyone have any condition that restricts them in physical activities, or in doing physical work?	11. 運動を伴う活動や仕事をするを制約する状態にある人はいますか？
12. Does anyone have any disfigurement or deformity?	12. 傷や変形がある人はいますか？
13. Does anyone ever need to be helped or supervised in doing things because of any mental illness?	13. 精神疾患のために、介助や見守りが必要な人はいますか？

図3 1993 オーストラリアの全国調査における障害に関する設問(DISTATより)

2. ワシントン・グループと他のシティ・グループ

ワシントン・グループは、2001年に、国連のシティ・グループ（インフォーマルな組織）とし

て立ち上げられた。その目的は、国際比較可能な障害発生率を得るために国勢調査で使う指標の開発であった。すでに終結したシティ・グループは9グループで活動期間は1年から13年であった。活動中のシティ・グループは8グループで一番古いのは1986年から35年続いている(表1)。ワシントン・グループも、後述するように課題が残されており、まだ、しばらく続くと推測される(表2)。

表1 国連のシティ・グループのテーマと活動期間

	シティ・グループ名	テーマ	期間	年数
活動中	London Group	Environmental Accounting	1993-	
	Oslo Group	Energy Statistics	2005-	
	Ottawa Group	Price Indices	1994-	
	Praia Group	Ggovernment Statistics	2015-	
	Titchfield Group	Ageing-related Statistics and Age-disaggregated Data	2018-	
	Voorburg Group	Service Statistics	1986-	
	Washington Group	Disability Statistics	2001-	
	Wiesbaden Group	Business Registers	1986-	
終結	Canberra Group	Household Income Statistics	1996-2000	5
	Canberra I	Capital Stock Statistics	1997-1999	3
	Canberra II	Measurement of Non-Financial Assets	2003-2007	5
	Delhi Group	Informal Sector Statistics	1997	1
	Paris Group	Labour and Compensation	1997-2003	7
	Rio Group	Poverty Statistics	1996-2006	11
	Siena Group	Social Statistics	1993-2005	13
	Ulaanbaatar Group	Statistics for Economies Based on Natural Resources	2012	1
	Wye Group	Statistics on Rural Development and Agriculture Household Income	2007-2011	5

表2 ワシントン・グループ 20回の開催地

回	開催都市(国)	回	開催都市(国)
1	Washington D.C. (U.S.A.)	11	Southampton (Bamuda)
2	Ottawa (Canada)	12	Bangkok (Thai)
3	Brussel (Bergie)	13	Amman (Jordan)
4	Bangkok (Thai)	14	Buenos Aires (Argentina)
5	Rio de Janeiro (Brazil)	15	Copenhagen (Denmark)
6	Kampala (Uganda)	16	Pretoria (South Africa)
7	Dublin (Ireland)	17	Sydney, (Australia)
8	Manila (Philippine)	18	Rome, Italy
9	Dar es Salaam (Tanzania)	19	Buenos Aires (Argentina)
10	Luxembourg	20	Zoom

### 3. 短い質問群 (WG-SS)

#### (1) それまでの設問との比較

国勢調査で使うことを目指し2006年に確定された短い質問群(ショートセット:WG-SS)と米国の1993年の国勢調査の設問を表3に比較し、変更された文言に下線を付けた。一行目では、long-lastingとしている期間の指定が削除された。また、Blindness, Deafness, Vision impairment, Hearing impairment という文言が使われなかったのは生活機能に注目したためと考えられる。

二行目では、期間を示す substantially limit が削除された。reaching, lifting, carrying は上肢機能として独立し lifting が残された。

三行目では、「6か月間続く」が削除され、Learning (学習) は別の領域に移動された。

四行目では、家の中での移動は削除され、着脱・入浴が残された。

また、選択肢は、アメリカの国勢調査では Yes, No の2段階だったが4段階になった(表4)。これは、2段階で聞くと、何もできない状態でないと「障害」と回答しないことが事前調査で明らかになったためであった。

表3 WG-SS と 1993 年米国の国勢調査における障害に関する設問

WG-SS Because of a health problem :	米国 国勢調査
1) Do you have difficulty seeing even if wearing glasses? あなたは眼鏡を着用しても見るのに苦労しますか?	16. Does this person have any of the following long-lasting conditions:
2) Do you have difficulty hearing even if using a hearing aid? あなたは補聴器をつけても聞くのに苦労しますか?	a. Blindness, deafness, or a severe vision or hearing impairment?
3) Do you have difficulty walking or climbing stairs? あなたは歩いたり階段を登ったりするのに苦労しますか?	b. A condition that substantially limits one or more basic physical activities such as walking, climbing stairs, reaching, lifting, or carrying?
4) Do you have difficulty remembering or concentrating? あなたは思い出したり集中したりするのに苦労しますか?	17. Because of a physical, mental, or emotional condition lasting 6 months or more, does this person have any difficulty in doing any of the following activities:
5) Do you have difficulty with (self-care such as) washing all over or dressing? あなたは身体を洗ったり衣服を着たりする (様なセルフケア) のに苦労しますか?	a. Learning, remembering, or concentrating?
6) Using your usual (customary) language, do you have difficulty communicating (for example understanding or being understood by others)? あなたは普通 (日常的) の言語を使用して意思疎通することに苦労しますか? (例えば、理解したり理解されたりすること)	b. Dressing, bathing, or getting around inside the home?

仮訳は、江藤文夫<sup>2)</sup>による

表4 選択肢

	1	2	3	4
WG-SS	No – no difficulty	Yes – some difficulty	Yes - a lot of difficulty	Cannot do at all
仮訳	いいえ、苦労はありません	はい、多少苦労します	はい、とても苦労します	全くできません
1993 年米国の国勢調査	No	Yes		

## (2) WG-SS に対する評価

WG-SS は、国勢調査の整備が始まったばかりの国では採用されやすいが、すでに多くの項目を使用している国で追加されるのは困難な場合が多い。その状況の中で、以下のように WG-SS は活用されている<sup>3)</sup>。

- ①国連統計部 (UNSD)<sup>4)</sup>、国際連合欧州経済委員会 (UNECE)、欧州統計学者評議会などに、2020 年時点の国勢調査で WG-SS は障害に関する情報収集に適した方法として認められている。
- ②85 か国の国勢調査等に用いられた (2020)。
- ③国際援助プログラムである DFID (国際開発省、イギリス) や DFAT (外務省、オーストラリア) において、障害に関するデータ収集の際に、全てのプログラムとプロジェクトで WG-SS を活用することが推進されている。
- ④USAID (アメリカ合衆国国際開発庁) が実施する DHS (人口保健調査) や、UNICEF がスポンサーになっている約 70 の MICS (複数の指

標を用いた集団調査)、そして世界銀行がスポンサーになっている約 70 の LSMS (生活水準測定調査) に、WG-SS が活用されている。

- ⑤シリアの難民キャンプで難民について障害の有無を判別し、必要な支援を提供するのに WG-SS が使われた<sup>5)</sup>。
- ⑥国際連合経済社会局の援助下にある障害に関するデータの専門家グループによって、障害の状態から見て、2030 年の持続可能な開発目標における議題を分類する手段として支持されている。

## (3) WG-SS に関する留意点

WG-SS への質問や誤解は多く、事務局は、その一部について回答を準備した<sup>3)</sup>。4 点について紹介する。

- ①WG の指標の活用目的は、「障害発生率の推定」と「障害の有無による就労、教育機会、プログラム参加などの差を示すこと : disaggregate」である。

②WG-SSの限界としては3点が示された。第一は、心理社会的障害がある人を見過ごしやすいことである。これに対して、WG-SS Enhancedが提案され、心理社会モジュールの開発が勧められている。

第二に、子どもを正しく判定できないことは早くから指摘されており、2016年に子ども用モジュール(WG/UNICEF-CFM)が確定した。

第三に、環境因子の指標がないことに対しては、労働環境の指標は確定し(2020)、教育環境のモジュールは開発中である。環境モジュールに関するワーキンググループは2019年からケニア統計局を議長にして再開された。

③WG-SSが使えない場面としては、診断、サービス受給者の判定がある。医療・福祉サービスを支給するための判定基準は各国がそれぞれに整備していることに留意が必要である。

④よくある質問に「長期・短期の困難の区別はないのか」「色素欠乏症、低身長、顔面神経麻痺

等が漏れる」があるが、これらに対しては、追加の質問で対応することが回答されている。例えば、色素欠乏症が重要な国・地域では、WG-SSに「あなたは色素欠乏症ですか?(はい、いいえ)」の設問を追加することが例示された。

#### (4) WG-SS 強化版(Enhanced)

米国は、2010年、2014年、2018年のNational Health Interview SurveyでWG-ESを使用し、毎回、約1600件のデータを得て解析を進めている。WG-SSだけでは障害発生率は9.5%(18歳以上)、6.6%(18~64歳)であったが、WG-ESすべてを使うと40%を超えた。そこで、適正な設問の組み合わせ案を検討してきた。2020年には、WG-SS EnhancedはWG-SSに上肢2問、不安2問、憂うつ2問を加えた12問から成り、人口の11.2%(18歳以上)、9.3%(18~64歳)であり、最も妥当と提案された(表5)。しかし、同様の解析は他の国のデータでは行われていないため国際標準にはなっていない。

表5 WG-SS Enhancedで追加された6問

Because of a health problem :	健康の問題により :
UB_1 [Do/Does] [you/he/she] have difficulty raising a 2 liter bottle of water or soda from waist to eye level?	上肢_1 あなたは(彼は/彼女は)、2リットルの水かソーダのボトルを腰から目の高さに持ち上げることに苦労しますか?
UB_2 [Do/Does] [you/he/she] have difficulty using [your/his/her] hands and fingers, such as picking up small objects, for example, a button or pencil, or opening or closing containers or bottles? W	上肢_2 あなたは(彼は/彼女は)、手と指を使って、ボタンや鉛筆のように小さなものをつまんだり、容器や瓶の開閉に苦労しますか?
ANX_1 How often [do/does] [you/he/she] feel worried, nervous or anxious? Would you say... [Read response categories]1 1. Daily 2. Weekly 3. Monthly 4. A few times a year 5. Never 7. Refused 9. Don't know often [do/does] [you/he/she] feel worried, nervous or anxious?	不安_1 あなたは(彼は/彼女は)、どのくらいの頻度で不安になりますか?(毎日、毎週、毎月、年に数回、ない)
ANX_2 [Do/Does] [you/he/she] take medication for these feelings?	不安_2 あなたは(彼は/彼女は)、そういう気分の時に薬を飲みますか? (はい、いいえ、無回答、わからない)
ANX_3 Thinking about the last time [you/he/she] felt worried, nervous or anxious, how would [you/he/she] describe the level of these feelings?	不安_3 あなたは(彼は/彼女は)、前回、そういう気分になった時は、どの程度でしたか?(少し、かなり、ひどく)
DEP_1 How often [do/does] [you/he/she] feel depressed?	憂うつ_1 あなたは(彼は/彼女は)、どのくらいの頻度で憂うつになりますか?
DEP_2 [Do/Does] [you/he/she] take medication for depression?	憂うつ_2 あなたは(彼は/彼女は)、憂うつに対して薬を飲みますか?
DEP_3 Thinking about the last time [you/he/she] felt depressed, how depressed did [you/he/she] feel?	DEP_3 あなたは(彼は/彼女は)、前回、憂うつになった時は、どの程度でしたか?

表6 米国 NHIS の結果による障害程度の区分案  
不安の頻度と強度  
(Michel Loeb, 第16回 WG 年次会合報告資料の仮訳)

最新の発生について	頻度					合計
	毎日	毎週	毎月	1年に 数回	ない	
非該当	0	0	0	0	6,638	6,638
少し	489 レベル 2	887 レベル 2	897 レベル 2	3,417 レベル 1	44 レベル 1	5,734
中間	589 レベル 3	725 レベル 2	535 レベル 2	1,221 レベル 1	16 レベル 1	3,086
かなり	148 レベル 4	256 レベル 3	123 レベル 2	248 レベル 1	13 レベル 1	1,188
合計	1,226	1,868	15,55	4,886	6,711	16,646

(5) 重みづけスコア SS-SCO

WG-SS では、障害発生率の国際比較をするほかに、国内データにおいて障害の有無による生活状況の比較をすることも目的である。その際に、「障害の有無」だけでなく「障害の重症度」による比較の可能性も第18回年次会合から報告され始めた。例えば、選択肢のうち「まったくできない」を36点、「かなり苦勞する」を6点、「多少苦勞する」を1点、「全く苦勞しない」を0点として、WG-SS の6項目の得点を合計すると0点から216点の間に分布する。図4と表7は、米国のNHISのデータにおける得点分布から障害の程度を4段階に分類する提案を示した。就労、喫煙、健康保険の利用について障害の有無で比較する場合(表8の上2行)と障害の程度4段階で比較する場合(表8の下4行)の2つの方法が示された。障害の程度による重みづけを使った方が、重複障害の複合的な困難を示しやすいかもしれない。

図4 WG-SS の回答に重みづけした合計点の分布(第20回年次会合の Mitchel Loeb 氏の資料の仮訳)

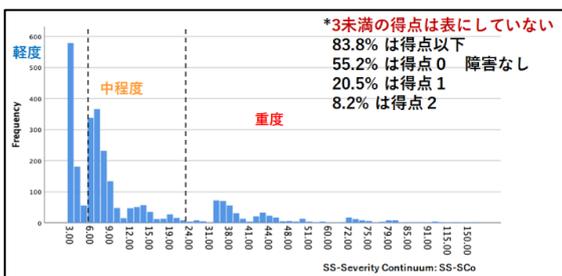


表7 WG-SS の回答に重みづけした合計点の区切りと分布  
(第20回年次会合の Mitchel Loeb 氏の資料の仮訳)

短い質問群の重症度カテゴリー (SS-SC: Severity Categories)		
	度数	比率
障害なし(得点 = 0)	9266	55.2
軽度(得点 = 1 to 4)	5572	33.2
中程度(得点 = 5 to 23)	1455	8.7
重度(得点 = 24+)	484	2.9
Total	16777	100

表8 WG-SS による2種類の「障害」の分別と就労率、喫煙率、健康保険適用率

(第20回年次会合の Mitchel Loeb 氏の資料の仮訳)  
・第1, 2行目は、WG-SS で「かなり苦勞」と「全くできない」を「障害」とした場合  
・第3~6行目は、WG-SS で重症度カテゴリー(表7)を使った場合  
(SS-DI3/SS-SC by Outcome Indicators)

	就労率	最近の 喫煙者	健康保険利用者
障害なし	73.6	13.3	82.7
障害あり	30.8	19.6	88.5
障害なし	76.8	12	81.7
軽度	67.1	15.6	84.3
中程度	35	20.7	87.2
重度	13.7	14.9	93.4

(6) 公表の形式

WG-SS 等を使った場合の結果を公表するための統一様式も2020年に提案された。資料1(後出)には、ケニアを例として例示された図を示した。統一様式により、WG-SS を使用した国の結果の比較が容易になることが期待される。

4. 子供のモジュール

WG/UNICEF CFM (Child Functioning Module)

子どものモジュールはすでに2016年に確定された。2歳から4歳用は8領域16項目から成り、5歳から17歳用は13領域24問から成る。CFMは26か国で活用され、Multiple Indicator Cluster Survey 6を採用している71か国で使用されている。https://mics.unicef.org/surveys

CFMの翻訳は、英語、フランス語、スペイン語、ベトナム語、ロシア語、中国語、アラビア語、ポルトガル語、クメール語の9か国が作成され、利用ガイドライン、FAQも作成中である。CFMは母親または養育者が回答することを前提としたが、学齢期の子ども(5-17歳)については教師が回答する版も12領域20問で1ページに収まるように作成中であ

る。

## 5. 労働力モジュール

The Washington Group / ILO

Labor Force Survey Disability Module (LFS-DM)

2020年には、ILOと共同開発した労働力モジュール17問が確定した。労働力モジュールは、5つのセクションから構成される。第1セクションは障害種別(Disability Identification)でWG-SSの6問と不安・憂うつ頻度2問、第2セクションは就労への障壁2問(Barriers to Employment)、第3セクションは就労のために必要な配慮2問(Accommodations Necessary for Employment)、第4セクションは態度(Attitudes)2問、第5セクションは社会保障(Social Protection)3問となった。設問と仮訳は資料2(後出)に示す。

## 6. インクルーシブ教育モジュール

WG/UNICEF Inclusive Education Module (IEM)

CFM(Child Functioning Module)に続いて教育環境の指標となるインクルーシブ教育モジュールの開発もNICEFと共同で続けている。候補になっている領域は、態度2問(Attitudes)、アクセシビリティ2問(Accessibility)、費用負担3問(Affordability)であり、事前調査が開始されている。

また、非就学児のための指標についても検討が始まっている。

## 7. 心理社会モジュール

WG Mental Health and Psychosocial Functioning

WHO-DAS 2.0(WHO Disability Assessment Schedule)を活用した5問、研究(Tenorio-Martínez et al 2009)から修正した2問、フランスの全国調査調査(Disabilities and health survey, 2008)から修正した1問に追加質問1問が第20回年次会合(2020)では案として報告された。

## 8. 環境モジュール

2019年から「環境と活動」ワーキンググループが、ケニア統計局職員を議長として活動を開始した。交通、ヘルスケア、スポーツ、娯楽、政治参加などの領域の優先順位を検討し、既存の指標を調査する方針という。かつての環境ワーキンググループでは(2010)、日常生活、災害も領域にあげられていた。しかし、日用品の買い物の環境はショッピングモールからバザールまで多様で確定に至らなかった。今後の展開が期待される。

## 9. COVID19の影響

2020年の年次会合は、COVID19の流行により、zoom会議となった。また、COVID19の生活への影響について、WG-SSによる障害の有無による差を明らかにする計画が追加された。雇用状況、経済状況の悪化が懸念されるためである。

## 10. 今後の展開

現在、検討中の課題には、インクルーシブ教育モジュール、子どもモジュール教師版、心理社会モジュール、環境モジュールがある。

毎年、登録国から収集しているカントリーレポートも2009年から2019年の間には98か国からの提出があり、障害者統計に関するネットワークの構築は継続している。

ワシントン・グループのホームページからの資料提供も再整理され、文書による利用ガイドだけでなく、解説ビデオの提供も開始された。



図5 カントリーレポート提出国(J. Madans. 第20回発表資料を改変)

## 11. わが国でのワシントン・グループの指標の活用状況

ワシントン・グループの指標は、日本では、生活のしづらさなどに関する調査で活用されている。また、国民生活基礎調査で WG-SS を使用することをインクルーシブ雇用議連等が提案している<sup>5)、6)</sup>。

### (1) 生活のしづらさなどに関する調査

#### ① 調査の概要

WG-SS と WG-ES の一部は、平成 23 年生活のしづらさなどに関する調査（厚生労働省、以下、23 年調査）においては、対象者の選別基準例として使用された。23 年調査は、それまで全国身体障害児者実態調査（5 年間隔、厚生労働省）、全国知的障害児者基礎調査（5 年間隔、厚生労働省）として別々に行われていた 2 つの調査に加えて、精神保健福祉手帳所持者と手帳を所持しないが障害者基本法に定義された「障害者」を対象に実態を調査することを目的に設計された。

調査区（地域の約 50 世帯単位）の全世帯を訪問した調査員は調査趣旨等を説明して、世帯に調査対象者（図 6 の条件に合った人）がいるかどうかを確認した。調査対象者がいた場合は、本人又はその家族等に調査票を渡し、記入後は返信用封筒で提出することを依頼した。調査票は、自治体に返送され、さらに厚労省に転送されて、集計された。その結果、約 9500 名の手帳所持者と約 4500 名の手帳非所持者が回答した。しかし、非手帳所持者のうち想定された障害種別の人は 4500 人の 2 割足らずで、8 割は高齢者であった。調査の設計段階で非手帳所持者として想定されていたのは、認定基準のある障害種別で認定基準にしない軽度の人、発達障害・高次脳障害・難病などで、障害者手帳の対象でない人（障害認定基準がない人）、認知症者であった。

#### ② WG-SS と WG-ES の活用

図 6 の条件は、13 項目中で上から 6 項目は WG-

SS、その次の 2 項目は WG-ES の組み合わせとされた。しかし、この一覧は調査項目ではなかったため、対象者がどの項目に該当したかの結果は得られなかった。

- ・眼鏡などを使っても見えにくい
- ・補聴器を使っても、音が聞こえにくい
- ・歩いたり階段を上り下りすることが難しい
- ・思い出すことや集中することに困難を伴う
- ・お風呂に入ったり、衣服を着たりといった身の回りのことを一人でするのが難しい
- ・話し言葉を使って、自分の考えや気持ちを伝えたり、相手の話を聞いて理解するのが難しい(例えば、理解したり、理解してもらうこと)
- ・物を持ち上げたり小さなものをつまんだり、容器のふたを開けたり閉めたりする
- ・いつも疲れているように感じたり、力が入らなかったり、しびれ、痛みが続いたりする
- ・お金の管理や日常の意思決定が難しい
- ・幻覚・妄想、そう・うつ、けいれん、薬物などの依存その他の精神の障害がある
- ・対人関係やコミュニケーションの困難さ、パターン化した興味や活動、読み書き能力や計算力など特化された困難さ、不注意、多動・衝動的な行動のいずれかがある
- ・外出、登校、行事など人のいるところへ出かけることに困難がある
- ・児童（18 歳未満）の場合、発達状況などからみて特別の支援や配慮を必要としている

図 6 23 年生活のしづらさなどに関する調査で対象者の選別に使われたリスト

そこで、平成 28 年の同調査では、図 6 の項目を対象者の選別基準として使用するだけでなく、設問のひとつとして、選択基準のどの項目を選んだかの記入を対象者に依頼した。しかし、図 6 の項目の前に障害者手帳を持っているかどうかを選ぶ項目を並べていたために、手帳所持を選択すると、その下のワシントン・グループの項目は選ばない場合が多くあった。また、項目を選ぶ場合の選択肢は国際指標では 4 段階であるのに対し、生活のしづらさ等に関する調査では、紙面の制約から 2 段階にした。さらに、この設問の結果は公表されなかった。新しい設問だったために集計から漏れたのだと推測される。そこで、次期調査では、WG-SS Enhanced を独立の設問とし、集計を公表することが提案された<sup>4)</sup>。

### (2) 人口ベースの全国調査での使用

#### ① 国民生活基礎調査と社会生活基本調査

ワシントン・グループの指標のもう一つの活用の

可能性は、国民生活基礎調査等の人口ベースでの全国調査での使用である。厚労科研の研究チームが提案してきたのに加えて<sup>6)</sup>、インクルーシブ雇用議連も国民生活基礎調査と労働力調査でのWG-SSの利用を提言した。人口ベースの全国調査でWG-SSを利用する理由は、障害の有無による生活状況の比較をするためである。国連障害者権利条約で平等を謳う就労率、普通教育の参加率などについて、批准国は定期的に政府レポートで障害の有無による差がどの程度あるのかを示し、差を解消する努力をすることが求められている。国際比較可能な指標として、インクルーシブ雇用議連はWG-SSを推薦した。

インクルーシブ雇用議連からの要請に対応して実現した令和元年度障害者統計の充実に係る調査研究（内閣府）では、ワシントン・グループによる指標、EUの指標MEHM（Minimum European Health Module）、精神衛生の指標を基にしたWHO-DAS（WHO Disability Assessment Schedule）2.0を比較して、WG-SSが障害種別、障害の程度による比較できる点で最も優れていることが示された<sup>7)</sup>。しかし、社会生活基本調査では、すでに調査票にある「健康」に関する設問との親和性<sup>8)</sup>と欧米諸国では生活時間調査ではWG-SSが使われた実績がないという理由によりMEHMが採用されることとなった<sup>9)</sup>。

## ②WG-SS Enhancedの採用

内閣府による調査研究でも、WG-SSによる障害者手帳所持者の捕捉率は必ずしも高くなく、身体障害者手帳所持者のうち43.4%、療育手帳の所持者のうち51.5%、精神保健福祉手帳の所持者のうち30.8%、難病法に基づく医療費助成の利用者のうち35.4%であった<sup>7)</sup>。

長野県飯山市で令和2年に行った「生活のしづらさなどに関する調査」の事前調査でも、WG-SSだけでは捕捉率は、身体障害者手帳所持者のうち44.7%、療育手帳の所持者のうち34.0%、精神保健福祉手帳の所持者のうち22.4%であった。WG-SS

Enhancedのうち不安と憂うつ<sup>10)</sup>の頻度に関する項目を追加した場合には、捕捉率は身体障害者手帳所持者のうち66.5%、療育手帳の所持者のうち37.0%、精神保健福祉手帳の所持者のうち51.2%に増加した<sup>9)</sup>。これらの結果から、全国調査ではWG-SSよりもWG-SS Enhancedが適切と考えられる。

ただし、国民生活基礎調査では、すでに、精神衛生に関する調査項目K6（Keller 6 Scale）を含んでいるため、WG-SS Enhancedのうち不安と憂うつに関する4項目はK6で代替して集計し、WG-SS6項目にWG-SS Enhancedから上肢2項目を追加した合計8項目を採用する方法もあると考えられる。

## ③WG-SSの限界

WG-SS等を使用して障害の有無による生活状況の比較をしても、現在の障害者福祉制度の直接的な評価にはならないことには留意が必要である。飯山市における事前調査では、障害等級が重度の人がWG-SSに対して「苦勞」を低く回答し「障害」に分類されない場合があったからである<sup>9)</sup>。

## 引用文献

- 1) 北村弥生，江藤文夫. 国連国際障害統計に関するワシントン・グループ会議第16回年次会合までの成果. 厚労科研 平成26-28年総合報告書「身体障害者の認定基準の今後のあり方に関する研究」, 2017.
- 2) 江藤文夫. 障害統計のツール開発の国際動向—国連ワシントン・グループ会議の活動を中心に. 厚労科研 平成22~24年度総合報告書「障害認定の在り方に関する研究」, 2013.
- 3) Washington Group. An Introduction to the Washington Group on Disability Statistics Question Sets. 2020.
- 4) United Nations Statistic Division. Principles and Recommendations for Population and Housing Censuses. 2010.
- 5) Altman, B. International Measurement of Disability Purpose. Method and Application.

Springer. 2016.

6) 岩谷力ら. 障害福祉データ利活用に関する研究 厚労科研 平成 26 年度総括・分担報告書: 1-7, 2015.

7) 野村総合研究所. 令和元年度障害者統計の充実に係る調査研究事業報告書. P. 43 令和 2 年 3 月.

8) 統計委員会委員長 諮問第 144 号の答申 社会生活基本調査の変更について. 2021.

9) 北村弥生ら. 障害者手帳所持者における国連国際障害統計ワシントン・グループ会議の指標の選択状況. 令和 2 年 厚労科研分担報告書 「現状の障害認定基準の課題の整理ならびに次期全国在宅障害児・者等実態調査の検討のための調査研究」, 2021.

(資料1) ワシントン・グループの指標を使った報告書様式に例示されたグラフ  
(第20回年次会合 Weeks氏の資料より改変)

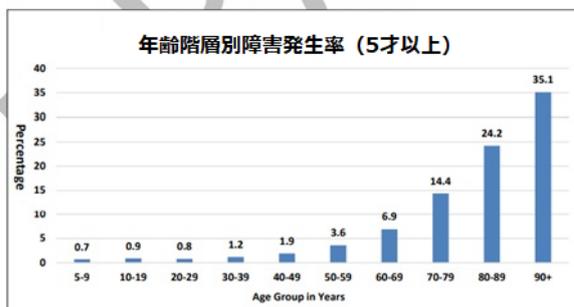


図1 年齢階層別障害発生率

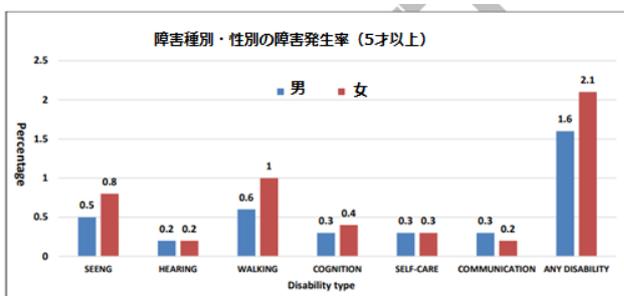


図2 障害種別・性別の障害発生率

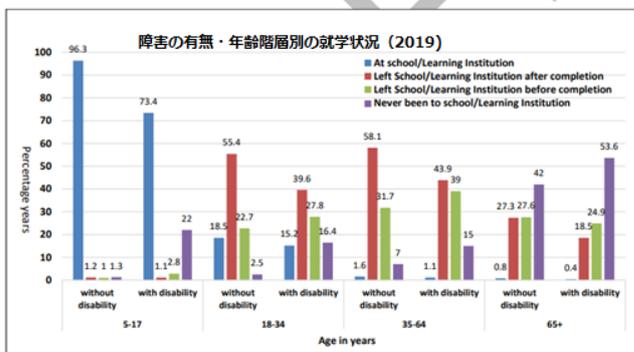


図3 障害の有無・年齢階層別の就学状況

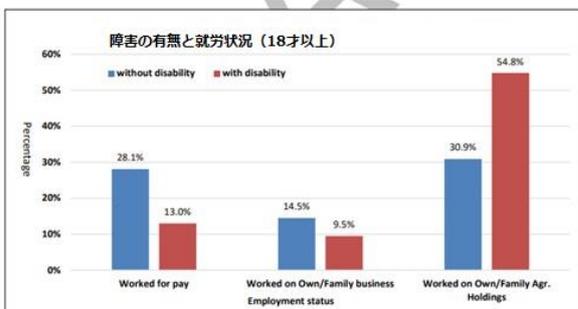


図4 障害の有無と就労状況

(資料2) WG/ILO 労働力モジュールと仮訳

英語設問	仮訳
Disability Identification	障害種別
WG-SS Anxiety Depression	短い質問群 不安 憂うつ
Barriers to Employment	就労への障壁
<p>9. Which of the following factors would make it more likely for [you/him/her] to seek or find a job? [Read response categories and mark all that apply]</p> <p>(1) Getting higher qualifications/training/skills            (2) Availability of suitable transportation to and from workplace            (3) Help in locating appropriate jobs            (4) More positive attitudes towards persons with disabilities            (5) Availability of special equipment or assistive devices            (6) Availability of more flexible work schedules or work tasks arrangements            (7) Availability of a more accommodating workplace            (8) Other: Please specify _____            (9) Refused (10) Don't know</p>	<p>9. 以下のどの要素が、あなたが就労するのに役立ちますか？(複数回答可)</p> <p>(1) より高度な資格・訓練・技術を身につける            (2) 職場までの適切な移動手段            (3) 適切な仕事に就くための支援            (4) 障害者への、より肯定的な態度            (5) 補装具などの利用            (6) 勤務時間・勤務内容の柔軟な調整            (7) 配慮を得られる職場            (8) その他：具体的に            (9) 無回答、(10) わからない</p>
Accommodations	配慮・調整
<p>11. Is [your/his/her] work schedule or work tasks arranged to account for difficulties [you/he/she] [have/has] in doing certain activities? [Read response categories and mark one]</p> <p>1. Yes, fully            2. Yes, partially            3. Not at all            4. I do not have difficulties that require accommodation            8. Refused 9. Don't Know</p>	<p>11. あなたの勤務時間・勤務内容は、あなたの困難を考慮して調整されていますか？(ひとつ選んでください)</p> <p>1. はい、完全に            2. はい、部分的に            3. まったくない            4. 配慮・調整の必要がある困難はない            8. 無回答、9. わからない</p>
<p>12. Has [your/his/her] workplace been modified to account for difficulties [you/he/she] [have/has] in doing certain activities? [Read response categories and mark one]</p> <p>1. Yes, fully            2. Yes, partially            3. Not at all            4. I do not have difficulties that require accommodation            8. Refused 9. Don't Know</p>	<p>12. あなたの職場は、あなたが活動するときの困難を考慮して改造されましたか？(ひとつ選んでください)</p> <p>1. はい、完全に            2. はい、部分的に            3. まったくない            4. 配慮・調整の必要がある困難はない            8. 無回答、9. わからない</p>
Attitude	態度
<p>13. In your view, how willing are employers to hire persons with disabilities? [Read response categories and mark one]</p> <p>1. Very willing            2. Somewhat willing            3. Unwilling            8. Refused 9. Don't Know</p>	<p>13. 雇用主は前向きに障害者を雇用していると、あなたは思いますか？(ひとつ選んでください)</p> <p>1. とても、前向き            2. まあ、前向き            3. 前向きでない            8. 無回答、9. わからない</p>

<p>14. In your view, how willing are workers to work alongside persons with disabilities? [Read response categories and mark one]</p> <p>1. Very willing 2. Somewhat willing 3. Unwilling 8. Refused 9. Don't Know</p>	<p>14. 同僚は障害者と一緒に働くことに前向きだと、あなたは思えますか（ひとつ選んでください）</p> <p>1. とても、前向き 2. まあ、前向き 3. 前向きでない 8. 無回答、9. わからない</p>
Social Protection	社会保障
<p>15. Have the difficulties [you/he/she] [have/has] been officially recognized (certified) as a disability?</p>	<p>15. あなたの困難は公的に障害とみなされていますか？</p> <p>1. はい 2. いいえ 8. 無回答、9. わからない</p>
<p>16. [Do/Does] [you/he/she] receive any cash benefits from the government linked to [your/his/her] disability?</p> <p>1. Yes 2. No 8. Refused 9. Don't know</p>	<p>16. あなたは障害に対して行政から現金の提供を受けていますか？</p> <p>1. はい 2. いいえ 8. 無回答、9. わからない</p>
<p>17. [Do/Does] [you/he/she] receive any goods or services from the government linked to [your/his/her] disability?</p> <p>1. Yes 2. No 8. Refused 9. Don't know</p>	<p>17. あなたは障害に対して行政から物品又はサービスの提供を受けていますか？</p> <p>1. はい 2. いいえ 8. 無回答、9. わからない</p>